

課題名 京都丹波産農産物の持続可能な生産支援	ものづくり	南丹農業改良普及センター
(1)普及指導事項（評価対象） 普及指導事項①：黒大豆・黒大豆エダマメの安定生産支援	(2)普及指導対象 黒大豆・黒大豆エダマメ栽培農家	
(3)活動内容と成果		
<p>黒大豆、黒大豆エダマメの生産技術の習得・実行支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町、JA等に働きかけ、生産者を対象とした現地研修会を5～8月の毎月1回、テーマごとに開催することを決定。協力体制について合意形成した。 南丹市、京丹波町で4回にわたり、のべ21か所で、現地研修会を開催。 は種・育苗、排水対策、中耕培土、土壌水分管理、病害虫防除等の基本と適作業について、実地研修、意見交換を行った。のべ127名の生産者が参加。 研修会参加者のほ場を巡回し、生育状況、気象、病害虫発生状況に応じて、管理作業への助言を実施。 巡回により得た生育の状況や病害虫防除の情報により、技術情報誌やメールサービス等による情報を発信した。 これらにより、適切な栽培管理技術、時期について理解が深まり、研修会参加者へのアンケートでは63%の生産者が「適切に管理できた」と回答した。 <p>黒大豆研究会の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 収量・品質の向上を目的に、同研究会で実証ほを設置（2か所）。 この実証ほ場において、研究会員のほ場互見会を開催し、かん水や病害虫防除などの栽培管理や莢付きの状況について、情報交換を促した。 これらの結果、かん水や病害虫防除の重要性が再認識され、エダマメとしては昨年比1.5倍の収量が確保できた。 		
(4)コメント	(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<p><要約></p> <p>本課題の取り組みでは近年の異常気象に対応した高温対策や適期かん水など、収量確保に寄与した点を評価する。また、研修会や情報発信を通じて新規就農者や経験の浅い農業者が学ぶ機会を広げ、農業者同士の交流を促進した点も有意義である。黒大豆を中心とした品目で成果がみられ、普及センター巡回による品質向上も評価する。</p> <p>今後の取り組みとして収益の変化など経済面の情報提示、成功事例の共有拡大、気象変動の深刻化を踏まえた生育情報収集や技術普及の継続を期待する。</p>	<p>令和8年度も高温、水不足が懸念され、また、生産者の害虫対策への意識や理解を高める必要があることも明らかとなってきたため、引き続き関係機関と協力し、現地研修会、情報発信などに取り組んでまいります。</p> <p>現地研修会や情報発信の際には、現地巡回や調査等で得られた生育状況のほか、「上手に生産している人」の情報を盛り込む等の工夫により、新規就農者や経験の浅い農業者が学べるよう「農業者が取り組みやすい事例」の収集・発信に努めます。</p> <p>また、実証ほの成果報告等では、経営の実態をふまえた経営評価を加える等、経済面での情報提示も行うこととしています。</p>	